

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区（丸子）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：5人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名			主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	4人	その他	0人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回
②ケース対応型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)	5回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		3回

(第2回運営協議会)		(第3回運営協議会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 介護支援専門員・サービス事業所を主な対象とし権利擁護の勉強会を重ね、地域の権利擁護支援の対応力を深める。	・長田地域包括支援センターと合同で介護支援専門員やサービス事業所を対象とした日常自立支援事業や身元保証といった権利擁護の勉強会を11月に実施予定。地域の主任介護支援専門員にも企画から参加してもらい計画をしている。 ・S型デイサービスや老人会にて職員で詐欺被害の寸劇を行うなどして啓発活動を実施。		・11/22に長田地域包括支援センターと合同で権利擁護の勉強会を実施。1/22に研修後のアンケートを元に企画から携わっている主任介護支援専門員と関係機関とで地域ケア会議実施課題を抽出予定。 ・S型デイサービスや老人会にて詐欺被害の寸劇を行うなどして啓発活動を実施。	・総合相談の内訳として権利擁護に関する内容が増えている。介護支援専門員やサービス事業所、地域住民に対し権利擁護に関する発信を継続して行っていく。
2 地域の介護支援専門員同士の連携強化、スキルアップ、多職種連携をしやすい環境作りをしていく。	・個別の地域ケア会議を実施。会議を重ねていく中で地域課題を抽出していく。 ・長田地域包括支援センターと合同で、介護支援専門員を対象にアセスメントのスキルアップを目的とした臨床像についての勉強会を地域の主任介護支援専門員と共に企画・運営をし開催予定。 ・静岡市ケアネット協会の事例研究ネットワーク開催時には地域の主任介護支援専門員と共に企画・運営から関わり、研修会へ参加。 ・自立支援プラン型地域ケア個別会議を6月、9月に実施。次回は11月開催予定。 ・圏域の居宅支援事業所を回り、事業所同士や包括との連携を深めた。 ・民生委員を対象とした勉強会にて、介護支援専門員との顔合わせや民生委員と介護支援専門員それぞれの活動を報告し相互理解を深めた。	10月の運営協議会でケアマネット協会の方から介護支援専門員が疲弊しているという話あり。介護支援専門員が疲弊している為、連携を働きかける事も難しい可能性がある。	・長田地域包括支援センターと合同で、介護支援専門員を対象にアセスメントのスキルアップを目的とした臨床像についての勉強会を1/14実施。 ・静岡市ケアマネット協会の事例研究ネットワーク開催時には地域の主任介護支援専門員と共に企画・運営から関わり、研修会へ参加。 ・自立支援プラン型地域ケア個別会議を6月、9月、11月に実施。 ・圏域の居宅支援事業所を回り、事業所同士や包括との連携を深めた。 ・民生委員を対象とした勉強会にて、介護支援専門員との顔合わせや民生委員と介護支援専門員それぞれの活動を報告し相互理解を深めた。 ・2/20に高血圧・高血糖に焦点を当てた地域ケア会議を介護支援専門員対象に実施していく予定。	・居宅支援事業所の介護支援専門員の異動などに伴い包括との関係性を再構築していく。また、圏域の防災に関して、圏域の居宅支援事業所を対象に情報提供をし、居宅支援事業所同士の顔合わせの場を検討。 ・長田西の民生委員を対象とした介護支援専門員との顔合わせを行う事が出来たが、長田北の民生委員との顔合わせは行っていない為次年度検討。
3 健康講座を実施し、地域の介護予防の意識作りを行う。	・地域の高齢者を対象に、認知症サポーター養成講座やファイブコグを実施、S型デイサービスにて健康寿命についての講座を行い、認知症予防の意識づけを行った。 ・ふれあいカフェにてかけこまちの協力を得て、認知症体験などを実施していく予定。 ・長田保健福祉センターの特定健診のデータから長田西学区は高血糖、長田北学区は高血圧が静岡市の平均と比較し高い為、第4回自立支援プラン型地域ケア会議のテーマとして支援策の検討をしていく。		・地域の高齢者を対象に、認知症サポーター養成講座やファイブコグを実施、S型デイサービスにて健康寿命についての講座を行い、認知症予防の意識づけを行った。 ・ふれあいカフェにてかけこまちの協力を得て、認知症体験などを実施していく予定。	・上記会議での専門職の助言を踏まえ、次年度健康講座等の内容への反映を検討する。 ・S型デイサービスなどにて健康についての講座を継続して行っていく。

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区（大里高松）地域包括支援センタ	職員	配置人数(定員：7人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 天竜厚生会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	4人	保健師 看護師等	2人	その他	人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回	2/19 4回目予定
②ケース対応型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)	4回	(第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		1回	

(第2回運営協議会)		(第3回運営協議会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 【総合相談支援事業】 複合的な課題に対して事例検討会や地域ケア会議、重層的支援体制整備事業を活用する	・事例検討会…6回 ・その他会議…7回 ・地域ケア会議…3回 ・重層的支援会議…フローチャート図を使用し検討したが、日々ケースに動きがあり会議開催のタイミングを逃している ・アウトリーチ…2回 【課題】課題解決ができない		・事例検討会…8回 ・その他会議…11回 ・地域ケア会議…4回(困難事例ケース対応) ・重層的支援会議…モニタリング会議1回 ・アウトリーチ会議…2回 ・ケアマネジャー、障害計画相談から世帯全体に関わる相談を受け、検討会や地域ケア会議を開催して情報共有や今後の支援について意見交換を行った。	・ケアマネジャーや他機関から相談があった際に情報共有と課題の整理のために事例検討会を開催した。ホワイトボードで見える化を行いケアマネジャーからも好評であった。次年度も事例検討会や地域ケア会議、重層的支援会議を活用していきたい。
2 【包括的・継続的ケアマネジメント事業】 ・主任介護支援専門員連絡会を実施する ・ケアマネ同士の情報交換ができる場を主任介護支援専門員が中心となって開催できるよう支援する	・主任ケアマネ連絡会でヤングケアラーについての研修を主任ケアマネと企画した ・ケアマネサロンを開始。毎月開催。偶数月はウエルカフェ、奇数月は有明なごみ ・介護支援専門員、民生委員、障害サービス計画相談員と地域ケア会議を開催した 【課題】主任ケアマネの自主的な活動が進まない		・ヤングケアラーの研修会を企画した際に、地域の主任ケアマネジャーが打ち合せの段階から参加した ・ケアマネサロンを毎月開催した。(当包括圏域内は、偶数月担当) ・介護支援専門員と生活支援コーディネーターが意見交換できる機会を作った。	・ケアマネサロンは、フリースタイルで参加できるところがメリットで参加者からは好評であるが、同じ顔触れになっている。次年度は、ケアマネジャーのニーズを把握し地域課題についての情報共有ができる有益な場となるよう支援していきたい。
3 【認知症総合事業】 ・認知症地域支援推進員が中心となって地域に認知症に対する理解を拡げていく ・認知症初期集中支援チーム員が活動する	・南部図書館で、認知症サポーター養成講座を開催 ・中田まつりで子ども向けにクイズを行いPRした ・業者の相談会で「しずメール」をPRした。 ・アルツハイマーデーに駿河区内の包括と南部図書館と一緒にイベントを開催した。 ・認知症初期集中支援チームが、1件の支援活動を行っている 【課題】後方支援チームとの連携 終結について	・認知症初期集中支援事業とは何か ・初期集中支援チーム員が対象者を支援することと、総合相談で支援することの違いは何か ・チーム員として働くことのメリットを簡単な概要と合わせて紹介してほしい ・高松包括は人員が潤っており、特に社会福祉士の職員数が多いが、社会福祉士を「この業務に充てている」というものがあれば教えてほしい	・認知症初期集中支援チームの事例が終結しモニタリング期間となった。 ・するが福祉フェスタに参加した。子どもを含めて高齢者体験70名、認知症クイズ80名の参加があり、認知症についての啓発を行った。	・認知症初期集中支援チーム員活動を行ったことで主治医との連携強化と成年後見の市長申立てに繋げることができた ・認知症地域支援推進員と市の協働で、商業施設で認知症イベントを開催できた。南部図書館にもブースを出展していただき福祉と違う分野との連携ができた。 ・地域のおまつりやフェスタで認知症に関する啓発を多世代に行うことができた。 ・次年度も引き続き多世代に向けてはたらかけていきたい。

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区（小鹿豊田）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 6 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数 7人							
法人名	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 静岡県済生会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1人	その他	人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	3回
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	3回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回	0回

(第2回部会
開催時点)

(第3回部会
開催時点)

(第2回運営協議会)		(第3回運営協議会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 【地域包括支援センターの知名度をあげる】 高齢者の身近な相談場所であることを周知し、多様な相談対応、抱える問題やニーズの早期発見、早期対応に努める。	・包括のチラシを1回作成し、全学区回覧を行った。関係機関にチラシを配布中。 今年度中にチラシをもう1回作成予定。 ・S型デイや地域の勉強会、清水銀行相談会、来てこ相談会等で広報、ニーズの掘り起こし行う。 ・新規の総合相談は、切れ目なく来ているが、必要になってから包括を知った方が多い。		・包括のチラシを2回作成し、全学区回覧を1回、関係機関に配布し包括の広報をした。裏面には、オーラルフレイル予防、軽度認知症予防を掲載し、S型デイ等で配布し予防の意識を高めた。 ・新規の相談や月間相談件数は横ばいだが、独居者の認知機能の低下からの相談や、複雑な家族環境での精神疾患など難しいケースも増えている。	・包括チラシは定期的に作り、配布することで、介護や介護予防に興味のある方に少しでも伝わるように継続していく。 ・S型デイや地域の活動に積極的に参加し包括を知ってもらう機会を継続し、ニーズの早期発見・早期対応に努めたい。
2 【フレイル、認知症予防を広める】 地域の高齢者が参加する地域活動に参加し、健康に関する情報提供や講座を実施し、地域高齢者の健康意識の向上を図る。	・歯科衛生士によるオーラルフレイル予防講座、健康機器を使用した健康講座を開催した。 ・マンション単位で、健康や介護保険など勉強会に参加、共催し、マンション住民へ情報提供や交流の機会を提供した。 ・認知症初期集中支援チームでケースの相談をしたが、活用までは至らなかった。	マンション単位での取り組みは、地域性があって良い。個々の取り組みの事例が集積されどう働きかけるか検討している。マンションでの情報提供の方法を管理者や管理組合と話し合ってみてはどうか。	・S型デイや、地域の勉強会で、オーラルフレイル予防講座、健康器具を使った講座、認知症の説明などを行った。 ・マンション単位でも、介護保険制度説明や地域密着型デイと共催し茶話会など開催した。	・S型デイの健康講座を定期的に開催し、身体状況の確認や興味をもってもらおう。 ・マンション単位の関わりも継続し、課題を集約していきたい。また、情報共有の方法も検討しながら、自治会の自助にアプローチし、住民同士の交流の場の機会を作っていきたい。 ・マンションでは、オーナーの理解、管理組合と自治会の関係など良くも悪くも違いがある。
3 【地域のネットワークづくり】 民生委員とケアマネが個別に連絡を取れる関係作りを進める。	3学区ごとに、民児協の時間をお借りし、民生委員とケアマネジャーの交流会を2学区で行った。残りの学区も年内に行う予定。 ・自宅ですっとミーティング(エンディングノートを活用)を年度後半で行う予定。	ネットワーク形成の会議はまだ0回。民生委員とケアマネジャーの交流会を実施し地域のネットワークづくりは始まっているが、課題や研修内容はどうか。話題や課題を集約し、地域ケア会議のテーマを設定し対応して欲しい。	・自宅ですっとミーティングは2月27日に静岡大学教授を招いて、人生会議の「コンパッションの地域づくり」人生最期を迎える時の私の悩み事をライブ形式で、参加者みんなで考える事を行う予定。 ・ケアマネと民生委員の話し合いは、3学区終了し、顔の繋がる関係づくりになり今後の支援協力体制が出来た。	・民生委員とケアマネジャーの会議は、継続の要望もあったので、相互交流の場として行っていく。そこで話し合われた課題は集約し繋げていく。 今後、個別ケース等、連絡調整取りやすい関係性を深め、連携の強化を図っていきたい。

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会										
事業所名	静岡市 駿河区（大里中島）地域包括支援センター		職員	配置人数(定員:6人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静岡社会福祉協議会			主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題										
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。										

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回	1回
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	3回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	4回	7回

(第2回部会
開催時点)(第3回部会
開催時点)

令和6年度重点項目		進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
令和6年度重点項目	【住民への認知症啓発活動】	・9/25医師による「認知症ミニ講演会」と併せて開催。地域課題として担い手不足があがる。 ・7/25中島児童クラブ61名(小1～4)を対象に開催。 ・内容を刷新。9/18認知症カフェにて参加者とボランティアに配布し、利用方法について説明。今後の活用を促した。 ・サロン訪問時に、認知症のミニ講演を施行。	子ども達の認知症の捉え方がとても良い流れだと思う。将来の担い手への取組みはとても大事。 認知症の啓発なのか、サポーター養成講座なのか？ 対象は子どもだが、家庭に帰り家族に話すと家族の認識も変わる。活動を続けるべき。	・大西学区の住民ボランティア組織の活動は継続中。定例会に参加し、チームオレンジのステップアップ研修の開催、まるけあ手帳の活用を促す等おこなった。 ・子ども対象の認知症サポーター養成講座は2年連続で行うことができた。 ・S型サロン参加時に、認知症に関する講演をコンパクトにおこなっている。	・S型サロンやボランティア住民から、参加者と担い手双方が減少し、人が集まらないと課題に上がっている。 地域住民の集う機会を活用させて頂き、様々な啓発活動を継続していきたい。 ・子ども対象の認知症教育は反応が良い事から次年度も継続したい。
	【専門職種との連携継続】	①5/24 年間予定と役割分担決定。課題の専門職種間の連携について意見交換。 ②7/26 「日常生活自立支援事業と成年後見」「生保制度とCMとの連携」をテーマに開催。 ③「BCP」能登災害ボランティア講師の講演予定。(10/18→延期) ④11月予定。		③内容変更し11/22「エンディングノート」の活用術」開催。 ④1/17「BCP」能登災害ボランティア講師の講演。 地域の専門職種との語り合いに参加したり、適宜連携を取れるようになっている。(管理栄養士主催のセミナーに民生委員が参加する等)	・年度当初、介護支援専門員の協力を得られるか不安であったが積極的に取り組んで頂けた。昨年の反省(専門職種とCMとの間でズレが生じた。)を踏まえ、介護支援専門員の意向を重視した催しを開催できたのが良かった。 次年度も4回/年を目標とする。 協力頂ける専門職種との調整が課題。
	【グループホーム(GH)との連携】 ※昨年やり残した事	・GH運営推進会議に出席した際に協力を呼びかけているが、人員不足で厳しい状況。7/26主任CMの会に1GHIに参加して頂いたが継続できず。 GH側からGHの会の立ち上げ希望が出たため検討中。 代案として認知症型デイサービスをお誘いし、参加して頂いている。		・2/13第一回GHの会開催予定。(顔合わせと情報共有、今後の展望) ・(代案も継続中) 3/19認知症カフェに認知症型デイサービスに主担当で参加して頂く予定。	・GH主催の運営推進会議には、長らく定期的に参加してきた。今年度、ようやく圏域内のGH関係者が一堂に会する場を設けることができた。 地域の専門職種らと協同していけるような発展的な連携関係を期待したい。

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区（八幡山）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 4 人)(9／1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数									
法人名	(株)アクタガワ		主任介護支援専門員	2人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他	2人		

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回		3回
②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会開催時点)	0回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回		0回

(第2回運営協議会)					(第3回運営協議会)				
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望					
1【総合相談支援、権利擁護事業】 相談者や支援が必要と思われる高齢者の意思や生活状況をアセスメントして、相談内容(問題解決の方針)に合わせた、自己決定に基づいた機関や制度、地域資源につなげていけるように支援する。	・新規相談や再相談は、相談票にて情報共有している。対応方法の検討が必要な場合は職員がそろっている機会に対応方法や連携先との協力・連携について共有する。	相談者の相談内容の共有が行われている。共有だけでなく、支援者に繋げていけると良い。 顔の見える関係づくりが行われている。気軽に連絡が取れる環境を作れば、災害時にも役にたつ。	・職員間の情報共有は継続して行われ、支援者との共有ができるように努めた。 ・相談者が自身で判断して、生活を続けていけるように情報提供を行った。また、関係機関との随時の情報共有を行った。	・相談者に必要な支援を行う機関(医療機関行政、障害支援機関など)との情報共有を行い、各機関の支援方法の共有が行えた。					
2【総合相談支援、包括的・継続的ケアマネジメント支援、在宅医療・介護連携推進、生活支援体制整備事業】 ・ケア会議を活用し、可能な限り「自宅ですっと」の生活が続けたいけるように、制度や地域資源が利用できているか確認する。また、地域資源の継続した提供や新たな地域資源の開発の支援を行う。 ・圏域内外の主任介護支援専門員とともに、自立支援型ケア会議、個別支援型ケア会議を活用して支援の評価を行うとともに、地域の課題を抽出する ・ケア会議などで地域の問題点を明らかにし、解決に向けた対応を検討する。併せて地域での活動の過程や結果を評価し、実施者と共有する。	・自立支援型ケア会議2回、大里高松包括主催の圏域の主任ケアマネの連絡会に参加。 ・市営有東団地で、生活支援コーディネーターや地域のケアマネと月2回の相談会を開催。「自宅ですっと」を続けるための講座を2回開催。生活上で困っていることを住民同士で話し合って、対応している。 ・県営有明団地では、介護サービスが円滑に利用できる環境を整える意識が向上している(介護事業所専用の駐車スペースの確保)。		・自立支援型ケア会議3回、大里高松包括主催の圏域のケアマネの連絡会・相談会に参加 ・市営有東団地で「自宅ですっと」を続けるための相談会や講座を生活支援コーディネーターと共に実施。 ・県営有明団地では介護サービスが円滑に利用できる環境づくりとして、医療・介護者専用の駐車スペースの確保が行われた。	・ケアマネ連絡会での情報交換が活発にできる開催方法を検討する。 ・市営有東団地内の相談会などは従来通り実施している。ボランティア活動の継続は次世代の支援者の創出・育成が課題。(新規入居者がいない。団地の老朽化で取り壊しがあるか?) ・県営有明団地での駐車スペースの確保は行えた。今後は、ボランティア活動を行う予定なので、生活支援コーディネーターと連携し活動開始に向けた支援を行う(情報提供など)					
3【包括的・継続的ケアマネジメント支援、介護予防ケアマネジメント、生活支援体制整備、認知症総合支援】 ・地域住民やケアマネ、関係機関が連携(役割分担や評価)が行えるようにケア会議で地域の問題点をあげていく。 ・地域資源(居場所やボランティアなど)による支援体制の継続と新たな地域資源の創出の支援を行う ・圏域内に居場所や相談場所を兼ねたフレイル予防の講座を実施する。	・居場所や相談先となる拠点づくりを行うため、富士見台自治会と共同で、認知症に係る相談会を実施予定(11月)。 ・民生委員とケアマネが顔の見える関係つくりのため、民生委員高齢者部会での研修の支援を行った。 ・市営有東団地の相談会は自治会関係者と顔の見える関係づくりを行っている。必要に応じて、担当者会議やケア会議が開催できるようにになっている。		・富士見台地区で居場所づくりのきっかけとして、生活支援コーディネーターと協働で、認知症に係る相談会を実施。相談3件、かけこまちの出張ブースに16名参加。 この相談会后、居場所づくりの相談があり設立に向けた支援を生活支援コーディネーターと共にを行う予定。	・相談会が「居場所」づくりのきっかけとなった。しかし、「居場所づくり」を行う住民の希望と自治会の意向との差がある。 ・自治会や包括などが提供できる支援との差の調整をどのようにするか、自治会や生活支援コーディネーターらとの調整が必要と思われる。					

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区(大谷久能)地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 3 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	0人	保健師 看護師等	1人	その他	0人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回	1回
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	4回
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	4回	6回

(第2回運営協議会)

(第3回運営協議会)

令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
1 【包括業務の周知と大谷久能くらしみまもりたいの普及】 ・各種包括業務においてみまもりたい活動をアピール、包括に地域住民の情報提供や相談につなげてくれるパイプ役の地域住民と連携する。 ・独居高齢者、高齢者夫婦世帯、地域のパイプ役の住民を定期的に訪問し、早期介入を行える体制を維持していく。	・独居高齢者、高齢者世帯、S型デイや自主グループ、パイプ役の地域住民への定期巡回、相談終了者にも定期的な関わりを継続。 ・圏域内の開業医への定期訪問による情報共有にて、早期介入につなげている。 ・4月、自治会組長会、地区社協の総会それぞれに、大谷久能くらしみまもりたいの説明を実施。4月の圏域ケア会議にて、民児協と事例を通し、みまもりたいの必要性について共有。	・地域ネットワーク形成の地域ケア会議が4回開催され、他のセンターと比べるとすごく多いが、いちご栽培のピーニールハウスの被害や、崖崩れなどから防災について要望が多く実施しているのか。身近でそういうことが起きると、それをきっかけに支援につなげられると思った。縁起でもないと言われたと思うが、そういうところも災害のいいところだったり悪いところだったりするため、きっかけを大切に何か企画ができると良いと思った。	・一般高齢者、相談終了者等の定期巡回訪問を継続し、数年越しの関わりで支援に繋がるケースや、相談終了者が新たなパイプ役となり、早期の相談に繋がるケースも増えている。 ・2/13の地域ケア会議では今年度のみまもり活動のふり返りを予定している。	・みまもりたい活動を基軸に、高齢者のみまもり活動だけでなく、フレイル予防、認知症予防等啓発活動を行いやすい特徴があり、今後もみまもりたい活動を中心に地域の福祉力を維持していく。 ・定期巡回訪問はアウトリーチの要であり、早期介入に繋がるため今後も継続していく。
2 【多職種ネットワークによる地域支援と協働の促進】 ・S型デイ等での介護予防講座開催や、多職種ネットワークによる地域支援に取り組む。 ・地域の定期巡回において、地域課題の聞き取りを行い、地域ケア会議につなげる。	・圏域内の事業所より、S型デイ、自主グループそれぞれ一カ所、市のリハビリテーション推進センターより自主グループ一カ所へ リハビリ専門職の派遣、自主グループ一カ所へ 薬剤師の派遣、自主グループ一カ所へ静岡市のMCI予防プログラムにおける講師の派遣を行った。 ・圏域ケア会議において、6月、講師を招き身元保証、終活支援事業について学ぶ。8月、民児協と圏域内主マネに向け、ACPの講座を開催。10月、民児協と圏域内事業所とで防災講座を受け、相互の応援体制に向け、防災時の課題について共有した。	・配置人員3人のところ本会議に2人出席している点が、人員体制として気になる。地域との関わりを深く持っている分、個別の相談が入ってくると思う。どうしても手薄になってしまうこともあり得るかと思うので、引き続き法人の努力をお願いするしかないのかなと考えている。本当に幅広い仕事があり2人では大変だと思う。	・圏域の医療機関から、オーラルフレイルの認知度が低いことへの懸念が聞かれていたこと、自立支援プラン検討型地域ケア会議において、歯科検診の受診率の低さや、口腔機能維持の重要性が挙げられ、その周知の一步として、12月の地域ケア会議で歯科衛生士を講師に、オーラルフレイルについて学んだ。 ・昨年度の地域づくり会議の結果、移動販売が開始となり、生活コーディネーターと地域住民を繋げ、定期巡回で聞き取った情報を生活コーディネーターと地区社協とで共有し、必要とされる場所や時間の調整をした。	・防災時の具体的連携までは話し合いに至らなかったが、今後も定期的に話し合いを持っていきたいと地域、圏域内事業所から聞かれた。次年度も防災について、地域の声を拾った上で内容を検討し、話し合いの機会を持ちたい。 ・地域ケア会議に圏域内の事業所や専門職の積極的な参加や協力があり地域の連携力が高い。この強みを今後も生かした専門職の地域貢献を継続していく。
3 【介護予防を目的とした活動と参加・交流の創出】 ・自立支援プラン型地域ケア会議を年内2回予定 ・圏域内の居場所の明確化により、外出の機会やささえあい活動につなげる。 ・地域の声に耳を傾け、適宜希望の講座を開催する。	・8月に自立支援プラン検討型地域ケア会議を開催予定だったが、台風のため10月25日開催予定。 ・自主グループ一カ所で包括によるACP講座を開催。1月に別会場で同様の講座、12月に介護予防講座を予定。 ・大谷地区において、大谷地区社協、生活支援コーディネーターとで「大谷ささえあいマップ」を作成し、今年度内に発行予定。		・自立支援プラン型地域ケア会議の開催が1回に留まったが、更なる課題が見つかり、その後個別会議に繋がった。 ・「大谷ささえあいマップ」が完成し、地域住民や圏域内事業所に配布中。	・資料を揃えることなどの負担感が大きく、自立支援プラン検討型地域ケア会議の事例提供者を探すことが難しい。 ・マップにより居場所が明確となり、デイ利用希望者が地域の活動の場への参加に繋がるケースが出ている。また、マップを見た事業所が活動場所としての開放について検討したいとの声が挙がった。

令和6年度 駿河区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市駿河区（長田）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 7 人)(9/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1人	その他	人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	1回		3回
②ケース対応型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)	5回 (第3回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回		4回

(第2回運営協議会)		(第3回運営協議会)		
令和6年度重点項目	進捗状況・課題(第2回部会時点)	委員意見	事業実績(最終)	良かった点、課題、次年度展望
【学区別地域ネットワーク会議の実施】 ・昨年度から実施している学区別の地域ネットワーク会議。今年度は長田南学区以外の川原、長田東学区の地区社会福祉協議会が、生活支援事業を開始。年間3回以上の関係機関とのネットワーク推進のための会議の開催が必要。そのため包括のネットワーク会議と連携協働し、3回の内の1回を包括主催で実施することとなった。	・川原:10/9、長田東:11/6に開催予定 ・昨年度同様に介護、障害事業所、医院、歯科医院、薬局などの医療機関、郵便局や銀行などの金融機関、警察や消防、保健センターなどの行政機関、スーパー、コンビニなどの商業機関などに参加依頼している。 ・長田南学区も年度内に生活支援事業を実施する可能性があるため生活支援コーディネーターと調整中。	・事業のアイデア着想が良い。 ・案内チラシが工夫されていて良い。 ・アンケートが数値化されており、評価しやすい。	・R6.11.6長田東ネットワーク会議開催 民生委員、自治会、地区社協、介護、医療、障害の事業所ほか、郵便局、消防署、金融機関職員も参加し、地域課題の共有と解決策について協議、顔の見える関係づくりを目的とした。 ・長田南は3月の開催を予定している。	・総合相談データや人口動態から地域課題を抽出し提示。課題に合わせた事例の検討を主な議題としたことに、参加者から好評があった。それらのデータを基にシニアクラブに対し勉強会を実施してほしいと、長田東地区社協から依頼があり、R7.1.13に「長田東地区の高齢者の実態からみる今後のシニアクラブのあり方」と題し講義及び意見交換を実施した。ネットワーク会議は来年度も同様に実施したい。
【wellbeing おさだっふの実施】 ・総合相談のなかから、介護保険をお守りとして申請しておきたいといった相談や介護サービスを利用することで、却って対象者の自立を阻害する可能性がある相談などが散見されることに注目し、住民個々の自助力を向上させることが、地域の力を向上させることにつながるのではないかと仮定し、その一助となるような内容の講座を7回シリーズで企画。長田の力を向上(おさだっふ)「おさだっふ」	・別紙の内容で実施中 ・当初20名定員で開始したが、現在30名以上の申込あり、定員枠を増やし実施している。 ・参加者アンケートでも「参考になった」「とても良かった」「友人にも勧めたいと思う」など好評を得ている。		・別紙参照 ・全7回中 6回まで終了。毎回40名以上の参加あり。 ・R7.3には修了祝賀会を予定している。 ・来年度の開催を望む声も多数寄せられている。	・地域の住民個々の自助力の向上から地域力の向上をねらいとしたシリーズ講座だが、これまでの参加率や参加者アンケートから以下のように評価した。年齢を重ねても、目的や希望を持ち、社会参加、人との交流を続けて生活することが重要だと認識し、これまでの生活の振り返りとこれからのモチベーションアップにつながっていることがわかった。来年度の継続を望む声も多いことから、実施内容等を検討する。
【脳の健康度テストの継続実施】 ・令和5年度に80名が参加された企画。 ・本年度も昨年と同様の形式で実施予定。 ・テスト後の認知症予防のための講座として「goodat」を実施し、元気高齢者がより元気に生活を続けていけるよう、自らの得意を活用していけるよう、社会的つながりを推進できる事業所等とのつなぎ会を併せて実施する。	・2月5日、19日に実施予定 ・つながり先事業所として、長田生涯学習センター、用宗老人福祉センター、静岡市シルバー人材センター、駿河区地域福祉推進センター、NEXTワークしずおかに協力依頼の打診をしている。		・運営部会当日には実施結果を報告予定	・R7.1.20から申込み開始とし、1.23現在で31名の申込みがある。 ・今年度の総合相談では権利擁護、成年後見に関する相談が例年よりも多く、身寄りが少なく判断能力の低下がみられるケースが目立つ。そういった地域課題からも、認知症に対する意識が高い住民が多いことも予想される。 ・年に1度の定期開催を予定。